

請 願 文 書 表	
受理年月日 及び番号	令和6年2月6日 第40号
件 名	学校給食に「ゲノム編集食品」を使用しないことを 求める請願
請 願 者	<div style="background-color: black; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 60%; height: 15px; margin-bottom: 5px; margin-left: 20px;"></div> <div style="background-color: black; width: 50%; height: 15px; margin-left: 40px;"></div>
紹介議員	石 沢 のりゆき
請願の要旨	次 頁 の と お り
付託委員会	文 教 委 員 会

## 請願理由

日本はゲノム編集食品が流通する世界で唯一の国で、現在、流通しているトマト・マダイ・トラフグに続き、ヒラメやアメリカからのトウモロコシが届け出を受理されています。スーパーマーケットでは、ゲノム編集トマトとその加工品がすでに販売されており、レストランでもゲノム編集マダイを提供する店がでてきました。

子ども達が、ゲノム編集食品を食べた際のリスクは未知数です。ゲノム編集は、目的以外の遺伝子を破壊する「オフターゲット」と呼ばれる現象が起きる可能性が指摘されています。目的以外の遺伝子が破壊されると、予想外の毒性やアレルギーを引き起こす可能性があります。また、ゲノム編集には「抗生物質耐性遺伝子」が挿入されます。「抗生物質耐性遺伝子」が削除されずに体内に取り込まれると、抗生物質耐性菌が出現し、細菌が感染しても抗生物質が効かない体になる恐れがあります。

ゲノム編集食品を避けるためには、「届け出の義務」と「食品表示」が必須です。しかし2019年、日本はゲノム編集食品について、安全性評価なしの任意の届け出で流通を認めるとし、食品表示も不要としました。種子や苗への表示も義務づけられていないので、農家は知らないうちにゲノム編集作物を栽培してしまい、消費者も知らないうちに食べてしまう可能性があります。

ゲノム編集食品に不安を抱く人は少なくありません。2021年9月、サナテックライフサイエンス株式会社（旧社名：サナテックシード株式会社）はゲノム編集のトマト苗を2022年から全国の福祉施設へ、2023年から全国の小学校へ配布する計画を発表しました。それに対して350を超える自治体が、安全性の確認できないトマト苗は受け取らないと表明しました。また、2023年10月には、静岡県議会が「ゲノム編集食品の表示を求める意見書」を国会に提出しています。学校給食で子ども達の口に入るものは、安心安全な食材を使用することが基本です。遺伝子組み換え食品と同様、予防原則で慎重に対応することが必要なのです。

以上のような観点から、文京区議会に対して下記の事項を請願いたします。

## 請願事項

- 1 「ゲノム編集食品」の届け出を義務づけるよう国に求めること。
- 2 「ゲノム編集食品」の表示を種苗・作物・食品にするよう国に求めること。
- 3 「ゲノム編集食品」は、加工品を含め学校給食に使用しないよう区に求めること。